

# よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹へ親しみを込めて呼ぶ通称のことです。



## 論語から学ぼう

(記念館玄関横案内板に掲示中です)

「論語」為政第二之二十三 書 淵田瑞穂さん

人にして信なくんば  
其の可なることを知らざるなり  
大車輓なく小車輓なくんば  
其れ何を以てかこれを行らんや。

「お互いに信頼関係がなければ、何をしてもうまくいかない。車を引っ張るにも、牛や馬をつなぐ横木やくびき止め（どちらも馬や牛を車につなぐ部品のこと）がなければ、どうやって車を動かすことができるだろうか。」という意味です。

安曇川の名産品である扇子にたとえるなら、扇骨・扇紙・留め具の3つの部品のどれ一つが欠けても、扇子は完成しないでしょう。

あらゆる物事は、他のものとの結びつきで成り立っています。これは人も同じで、お互い信頼しあえてこそ、協力して色々な事ができるようになるのですね。



## 《 第81号 》 (2022年10月発行)

### 令和4年度後期企画展 「中江藤樹と脩身堂」より

#### シリーズ よえもん



近江聖人中江藤樹記念館では、10月7日（金）から令和5年3月31日（金）まで、「中江藤樹と脩身堂—学びの系譜—」を展示します。

中江藤樹先生と高島郡大溝（現在の高島市勝野）を城下とする大溝藩との関わりは、藤樹先生が大洲藩を脱藩し小川村に帰郷してから12年後のことでした。藤樹先生は、正保3年（1646）に、大溝藩の2代目のお殿様、分部嘉治からお城に招待されています。

江戸幕府は、封建制度を守るため、身分の秩序を大切にする朱子学を奨励しました。人の身分の上下にかかわらず良知（美しい心）の指図に従って行動することが、身を修める根本「良知に致る」とする藤樹先生の教えとは、大きな違いがありました。



直垂：大溝藩主より頂いたとされる中江藤樹遺服(分部家家紋：丸の内に三つ引き)

### ＊ 編集後記 新着情報 etc

数か月前と比べると、新型コロナウイルスの新たな感染者数も減少し、様々な社会活動や経済活動等も感染に十分配慮しながら、いわゆる「withコロナ」を考慮した方法で行われています。新たな感染者が減少したとはいえ、油断はできませんが、人の流れが目に見えて増えており、記念館周辺でも活気を感じるこの頃です。

喜ばしいことに、夏から初秋にかけて来館者が徐々にふえてきました。個人のグループで訪れてくださる方々、家族の方々、学校団体様、社会教育団体様等々、多様な形で訪問くださいます。感染予防に十分配慮しながら多くの方々と交流する機会をいただき、職員一同うれしく思います。多くの商業施設や社会教育施設等も入込人数が増えていることが伝わってきていますが、本館でもしばらくの間少なくなっていました他府県からの来館者数ももどりとつあります。広域の方々と交流する機会をいただき、職員も新たな知識が増えたり、意識が広い範囲に向いたりし、活性化します。関西、関東、東北、九州、四国、中国、九州等から泊をともなって足をお運びくださる方々の「期待」を裏切らないよう、展示や館の案内等を工夫しながら日々の仕事をすすめています。これから行楽の好季節を迎えます。お誘いあわせの上、是非ご来館ください。

### 近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

